

## 🏠 お薬を正しく服用するために 🏠

お薬は、正しく使用することにより、病気の回復を助け、皆さんの健康を守ります。  
しかし、のみ方を間違えたり、のみ合わせがよくないと、副作用がでることがあります。  
正しく服用するために、以下の点について確認してみましょう。

### お薬が多くなりすぎていませんか？

複数の医療機関を受診して、同じ種類の胃薬や血圧の薬を処方されていたり、  
すでに症状が治ったのに、お薬をのみ続けていたりする場合などが増えています。  
病院を受診する時や薬局に処方箋を持っていくときには、  
必ずお薬手帳の確認・記録をお願いしてください。  
必要以上にお薬を飲むことになっていないか、医師や薬剤師に確かめてもらいましょう。  
お薬手帳は一人で1冊にまとめましょう。



### お医者さんに正しく伝えていますか？

複数の医療機関にかかって別のお薬をもらったり、お薬の飲み忘れがあったり・・・  
そういったことを医師に正しく伝えていますか？  
他の病院でお薬をもらっている、飲み忘れがある等は、  
きちんと医師に伝えてください。

### 副作用かな？と思ったら

最近はお薬といっしょに「お薬の説明書」を渡されることが多くなりました。  
お薬を飲む時間・量の他に、お薬の注意事項や副作用の症状も書かれています。  
副作用には色々な症状があります。  
不安な症状が出てきたら、まず医師や薬剤師に相談してください。  
症状によっては、病院への早期受診をお勧めする場合があります。



当院では「お薬手帳」をお持ちになることをお勧めしています



♪ お問い合わせ 薬剤科 ♪

♪ 多摩南ミ二通信を入手されたい方は、患者支援センター地域連携部門まで ♪

# 今月の医療 動悸について

## 循環器内科

### 動悸とは？

動悸とは一般的に胸がドキドキすることを指します。

動悸の症状で循環器内科を受診する患者さんもたくさんいます。



### どういう時に起こりやすいの？

通常心臓は1分間に50から70回の心拍数で動いており、私たちはそれを普通感じませんが、更年期障害やうつ病などの時には、正常に打っている心臓の鼓動を自覚することがあります。

病的な動悸は心臓の心拍の異常が原因のことが多く、一般的には不整脈と言います。

また心臓以外の病気では、甲状腺の異常や貧血などの時に脈拍数が増加して動悸を自覚することもあります。



### 治療はどうするの？

動悸を自覚していても異常がない場合も多いので、その場合は心配ないことをご説明します。それだけで動悸の症状がなくなることもあります。

また心臓以外の原因で起きている場合には原因に対する治療を行いません。

心臓が原因で起きている場合でも、治療を必要としない動悸も多いのですが、放置できない不整脈と言われた場合には、治療が必要なのかも含めて専門医に診てもらう必要があります。

### どのように診断するの？

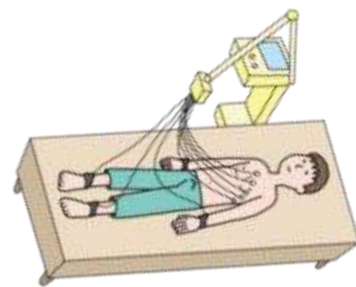
最も大切な検査は心電図です。動悸を自覚しているときに心電図を記録し異常があるかどうかを判定します。

通常的心電図で異常がみられないときには、

- ◆ 24時間心電図検査・・・小型軽量の装置を身につけて、日常生活での心電図を記録する検査
- ◆ 運動負荷試験・・・心臓に一定の負担をかけ、心電図の変化をみる検査
- ◆ 携帯心電図記録装置・・・動悸の頻度が少ない患者さんに、動悸を自覚したときに胸に当てて心電図を記録していただく携帯用の装置

などの精密検査を行うこともあります。

なお患者さん自身が出来ることとしては、動悸を自覚した時に脈を測っていただくことが有用です。脈が規則正しく毎分100以下で打っていれば、まず問題はないと思われます。



循環器内科医長 吉崎 彰

☆当院は紹介制の医療機関のため、まずかかりつけ医にご相談いただくようお願いいたします。